

# 読書のすゝめ

その5 H 29 4 / 26

## 新任の先生紹介③

清宮 直樹 (1年2組 副担任・理科)

「宇宙は何でできているのか」 村山 斉

(幻冬舎新書)

平成二十二年『いける本大賞』、平成二十三年『新書大賞』を受賞した作品で、大学で物理学を専門に学んだ私は、タイトルを見るなりすぐさま手に取りレジに並んでいました。

内容は、タイトルの通り「宇宙はどう始まったのか」「私たちはなぜ存在するのか」「宇宙はこれからどうなるのか」ということを粒子物理学の世界通して書かれたものです。こう言ってしまうと、小難しい内容を小難しい用語を用いた小難しい文体で書かれているものと想像するかもしれないが、そんなことはない。確かに取り扱っている内容は「対称性の破れ」「ヒッグス粒子」「超ひも理論」など取っつきにくいものだが、これらが平易な言葉でユーモアを交えながら書いてあるので、素粒子物理学に触れたことがない人でも興味深く読み進められると思います。



須貝 一輝 (2年5組 副担任・商業)

『その時までサヨナラ』 山田 悠介

私は学生時代、本を読む習慣がほとんどありませんでした。しかし、学生時代の先生からこれからの人生で本を多く読みなさいと言われ、はじめに読んだ本がこの本でした。

この本は、大手出版所にとめる敏腕編集者、悟。すべてを犠牲にして仕事に打ち込んだ結果、妻と4歳になる子供とは大きな溝ができてしまう。妻は子供と実家に帰り、離婚をまっていた。そこに突然の列車事故。妻はなくなり、子供は奇跡的に無傷ではあったが、心に大きな傷を負ってしまう。子供は悟になつこうとせず、仕事をする上で邪魔だと思ひ、義理の両親に引き取らせるつもりだった。そんな時、妻の親友が自宅にやってくる。悟と子供がすっかりと暮らしているように助けてほしいと妻に偶然死の直前に頼まれていたため約束を果たしてきたのだという。悟は戸惑いや怒りがあつたが徐々に受け入れていく。その中で悟はゆっくりと成長していくのだが、、、。列車事故の詳細が判明してゆくうちに、事態は思いがけない方向へ動き出す。悟は失いかけた“絆”を取り戻すことができるのか?という本です。



本を読まなかった私でもついつい続きが気になり、はまってしまいました。この本のほかにも山田悠介さんが出している本は多くあります。みなさんも気になりましたら読んでみてください。

## 図書委員会から(報告)

17日の委員会では今年度の役員が決定しました。よろしくお願ひします!

- |      |   |                |
|------|---|----------------|
| 委員長  | ・ | 本田 紗南さん(3年7組)  |
| 副委員長 | ・ | 谷田川 沙希さん(3年7組) |
| 書記   | ・ | 山口 史帆さん(3年7組)  |
|      | ・ | 大竹口 春奈さん(3年7組) |
| 会計   | ・ | 前川 瑠菜さん(3年1組)  |
|      | ・ | 横田 瑞葵さん(3年1組)  |

※関東地区生徒図書委員会への参加者は2年生3名、中央研修会への参加者は1年生3名となりました。それぞれ実施後に『読書のすゝめ』で報告をしたいと思ひます。

